

○ 愛知県におけるカメムシについて

愛知県農業総合試験場の「あいち病害虫情報」によると、今年はカメムシの発生が多く注意が必要とのこと。

カメムシは、カメムシ目に属する昆虫の総称で、日本には千種類以上が生息するといわれます。このうち、夏から秋にかけて大量発生し、被害をもたらすのは、果樹カメムシ類と呼ばれるチャバネアオカメムシやクサギカメムシ、ツヤアオカメムシなどで、愛知県では、特にチャバネアオカメムシの割合が高いのが特徴です。

チャバネアオカメムシは、体長約1cm、寿命1年半程度で、5月下旬から8月にかけて、スギ、ヒノキ等の球果に産卵して増殖します。多い時には1回の産卵で、約100個の卵を産み付け、約1週間で成虫になります。そして、餌の球果を食べつくすと森を離れ、果樹園や民家の果樹に飛来します。夏から秋にかけてはナシやカキ、ミカンなどのかんきつ類での被害が多くなる傾向にあります。また、夜行性で、日没後から1時間が最も活発となり、1日の飛行距離は5kmという観測結果があります。

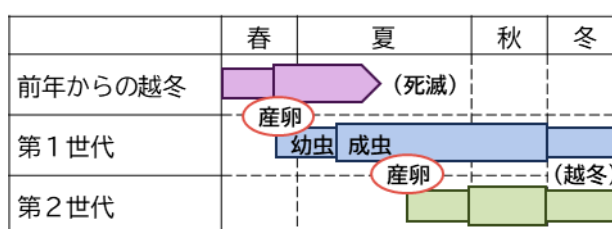


チャバネアオカメムシ（成虫） カキにおける吸汁痕

出典：愛知県農業総合試験場
病害虫図鑑 カメムシ類（果樹共通）

○ カメムシ大量発生と地球温暖化

カメムシの大量発生は、地球温暖化の影響による活動期間の長期化です。これは、暖冬によって、前年から越冬する個体が増加し、カメムシの繁殖開始時期も早まるためです。この活動期間の長期化と、餌の球果の豊年が重なると、カメムシの個体数だけでなく世代数も増加し、さらなる大量発生につながります。



チャバネアオカメムシの大まかな生態
(大阪府「果樹カメムシ類 生態と防除対策」を参考に作図)

○ 効果的なカメムシへの適応策

カメムシは、光に集まる性質があり、特に紫外光に反応します。このため、不必要な照明の消灯や、LED照明への変更により呼び寄せが緩和されます。また、夕方に活発化するため、洗濯物は早めに取り込むことにより屋内への侵入予防となります。屋内に入った場合は、刺激を加えると猛烈にくさい臭いを発するため、ティッシュなどで軽くつまんだり、底を切ったペットボトルなどで捕獲したりして、カメムシを外に出しましょう。

環境調査センター 企画情報部
愛知県気候変動適応センター
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)



適応とは、気候変動の影響に備えること。

愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら
<https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html>

